

学術情報センター ニュース

第33号目次

《トピックス》

- ・国立国会図書館長等の来訪……………2
- ・NDL/NACSIS-ILL実験システム開発計画 ……2
- ・NACSIS-IRのオープンシステム対応情報
検索システムへの移行……………2
- ・平成7年度学術情報ネットワークの整備と
拡充……………4
- ・海外へのFAXサービス開始……………6
- ・教育研修用ビデオ「Welcome to NACSIS-IR」
の紹介……………6
- ・新設 教育研修用施設……………7
- ・学術雑誌総合目録和文編1996年版全国調査
の実施……………8
- ・電子図書館サービス平成9年度開始予定…9
- ・ファーバー教授の日本滞在……………10
- ・多言語対応目録システムの開発計画……………11
- ・タイ国からの招へい……………12
- ・参議院文教委員会委員が学術情報センター
を視察……………13

《NACSISサービス案内》

- ・メインシステム機種更新作業に伴うサービス
休止の予定……………13

- ・「日本建築学会文献索引データベース」
サービス開始……………14
- ・NACSIS-MAIL公開情報サービスの利用
法変更……………14
- ・個別版CD-ROM提供サービスの追加募集…17
- ・「パソコン通信による情報検索・電子メール
接続案内」の発行……………18
- ・接続ニュース……………18
- ・NACSIS-IRデータベース収納状況 ……19
- ・NACSIS-CATデータベース構築状況 ……21

《講習会など》

- ・平成7年度学術情報センターシンポジウム
開催……………22
- ・平成7年度の科学研究費補助金「研究成果
公開促進費」による「大学と科学」公開
シンポジウム開催……………23
- ・平成7年度国際シンポジウム開催……………24

《その他》

- ・平成7年度前期会議等報告……………24
- ・人事異動……………25
- ・海外渡航 一覧……………25
- ・学術情報センター日誌……………26

学術情報センターニュースはNACSIS-BBS,Gopher,WWWでも見るすることができます。
URLは Gopher gopher://gopher.nacsis.ac.jp, WWW http://www.nacsis.ac.jp です。

国立国会図書館長等の来訪

平成7年7月6日(木)、国立国会図書館の緒方館長、宮脇総務部長、三上専門調査員ほか15名が本センターを来訪された。猪瀬所長ほか各部課長との懇談の後、安達教授から電子図書館、大山助教授からSGML、浅野教授から超高速通信網実験のデモンストレーションがそれぞれ行われた。

また、夕方からは懇親会を開き、今後のより一層の協力体制のもと、懇親を深めた。

N D L / N A C S I S - I L L 実験システム開発計画

国立国会図書館と学術情報センターは両者の協力のもとに、参加館から国立国会図書館へILL申込みができるようにするために、次のような計画でILLの実験システムの開発を進める予定である。

	1995年							1996年			
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
計 画	◆		◆								
設 計・開 発			◆				◆				
モ ニ ター							◆			◆	
サービ 開始										◆	

1. 計画
 - ・システムの仕様の作成
 - ・システムプロトタイプの実験
2. 設計・開発
 - ・国立国会図書館ILLシステムの開発
 - ・NACISIS-ILLの改造
3. モニター
 - ・実験システムの検証
4. サービス開始
 - ・国立国会図書館ILLシステムのサービス開始
 - ・NACISIS-ILLからの国立国会図書館への依頼機能のサービス開始

(目録情報課)

N A C S I S - I R のオープンシステム対応 情報検索システムへの移行

1. 概要

昭和62年度から運用を開始したNACISIS-IRについて、この度、学術情報センターのメインシステムの機種更新および計算機環境の変化に伴い、オープンシステムに対応した新しい情報検索システム(以下「新IRシステム」と略す。)への移行を3年計画で進めています。

2. 開発計画

新 I R システムの開発の経緯および今後の予定は次のとおりです。

平成 6 年度

- (1) 過去に実施したモニター制度での意見・要望等や他機関等の情報検索サービスの機能を調査し、新 I R システムに求められる機能を検討した。
- (2) 新 I R システムの母体となるオープンシステム上の検索システムについて調査した結果、OPEN TEXT 社製 PAT が必要な機能を満たしており、新 I R システムのプラットフォームとして検討を進めることとした。
- (3) PAT をベースとした新 I R システムプロトタイプ的设计、開発を行った。

平成 7 年度

- (1) 利用者等の協力を得て新 I R システムプロトタイプのモニタリングを実施し、プロトタイプシステムの評価・検討を行う。
- (2) プロトタイプシステムの評価を基に、新 I R システムの仕様を確定し、開発を行う。
- (3) 現在メインシステム上でサービスしているデータベースを平成 7 年度から 3 年をかけてオープンシステム上へ移行する。

平成 8 年度

平成 8 年度以降は、データベースの移行および利用者管理システム等の移行を行い、平成 9 年度までに現行の情報検索サービス全体をオープンシステム上へ移行する。

3. 新 I R システムの特徴

新 I R システムの特徴は次のとおりです。

- ・ C U I (文字型ユーザインターフェース)
- ・ I S O に準拠したコマンド体系
- ・ フルテキスト検索機能 (テキスト中の任意の語で検索可能)
- ・ 複数データベースを同時に検索可能
- ・ 近接演算や集合演算、語の出現頻度を指定した検索等、従来の N A C S I S - I R にない高度な検索機能
- ・ 検索結果の出力機能の充実 (K W I C 表示、ハイライト表示、ソート表示、ユーザ定義表示等)
- ・ シソーラス機能の充実

4. サービスの移行計画

なお、従来の N A C S I S - I R から新 N A C S I S - I R へのサービスの移行の具体的スケジュール等については、別途、お知らせいたします。

(データベース課)

平成7年度学術情報ネットワークの整備と拡充

平成7年度予算および第一次補正予算により、国内ネットワークが50Mb/s(9ノード)、6Mb/S(20ノード)の回線増強の経費が認められ、国際ネットワークでは、日米間が6Mb/s、タイに2Mb/sの回線経費が認められました。

また、同時に第一次補正予算により全国の大学に学内ATMネットワークシステムの予算が認められ、学術情報センターにもそれらの学内ATMネットワークシステムを接続するための新ATM交換機の予算が認められました。これにより、学術情報ネットワークのより一層の高速化・高機能化が図られることになりました。

これらの状況から、今年度の学術情報ネットワークの整備と拡充を下記のとおり実施いたします。

1. 国内ネットワーク回線構成の変更

回線増強による物理および論理的な回線構成は、図-1に示すように中央ループ(学術情報センター、東京大学、名古屋大学、大阪大学、京都大学、筑波大学)、北日本ループ(北海道大学、東北大学、新潟大学、金沢大学)、西日本ループ(神戸大学、広島大学、九州大学、熊本大学、愛媛大学)の3ループ構成とし、その他のノード大学はループのノード大学からスター型の構成となっています。

なお、SINETルータ間の論理的な仮想パスは中央ループではATMフルメッシュ、北日本ループと西日本ループではフレームリレーフルメッシュを採用しており、中継によるオーバーヘッドの低減ならびに障害やノード停止に強く、従来のループ構成より柔軟な通信制御を可能といたしました。

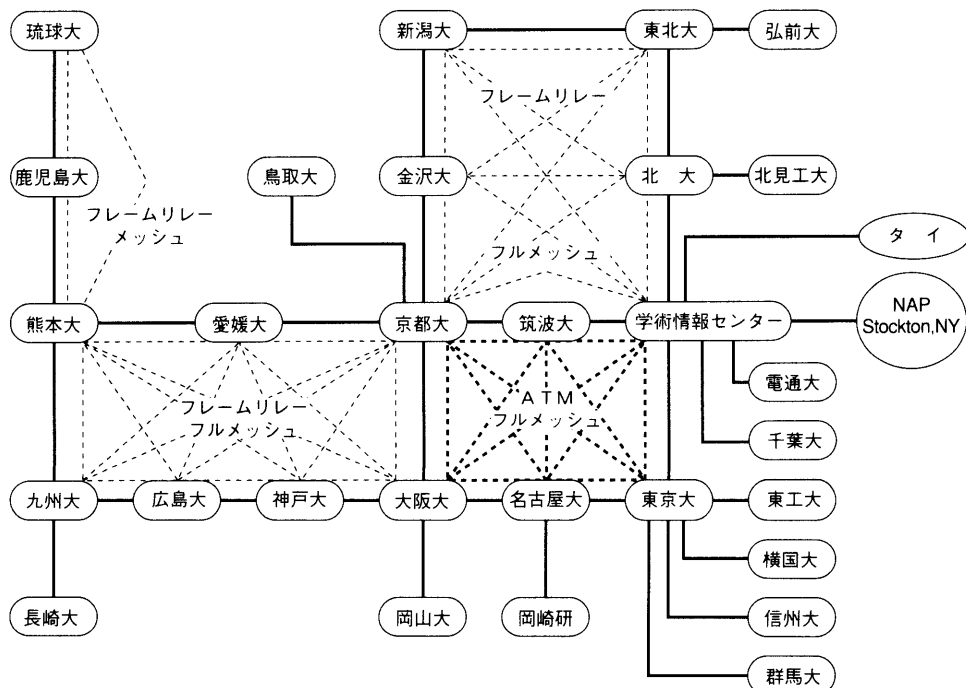


図-1 物理/論理回線構成

2. ATM交換機の導入とSINETルータの強化

学術情報ネットワークの超高速化への対応と、学内ATMネットワークシステムの接続を行うため、全国の28ノード機関と学術情報センターに新ATM交換機の導入を予定しており、調達手続きを進めているところです。これにより、パケット交換網とインターネット・バックボーン（SINET）の通信網を統合化して、ATM交換網を構築することとなります。

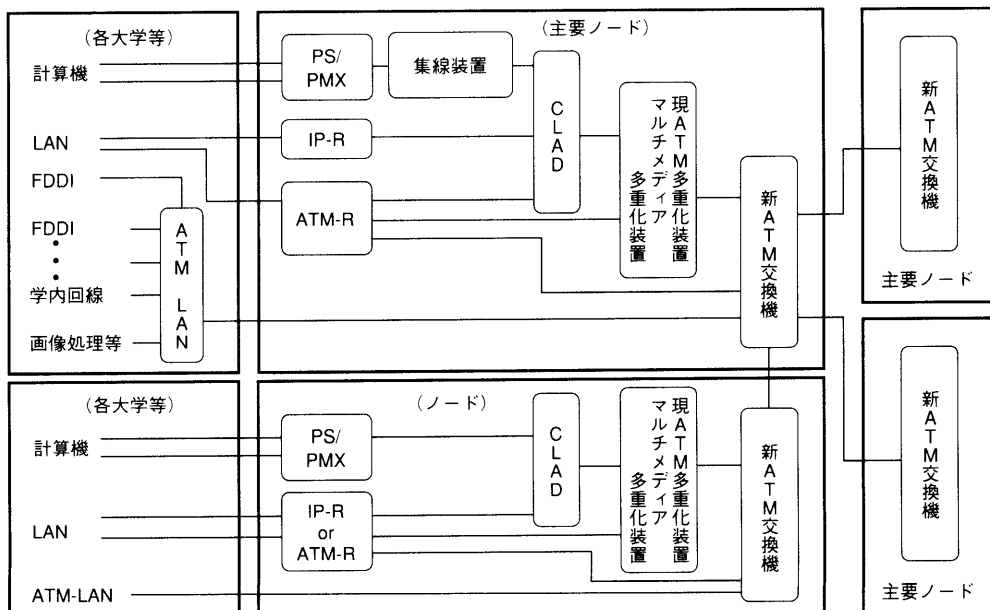
また、加入機関の増加と超高速回線に対応するため、7ノード機関（電気通信大学、千葉大学、横浜国立大学、新潟大学、神戸大学、愛媛大学、熊本大学）にシリコンプロセッサ、FDDIインタフェースを搭載した、高速・高機能なSINETルータを増設いたします。

さらに、主要9ノード（北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、広島大学、九州大学）および学術情報センターの既設SINETルータにシリコンプロセッサとFDDIインタフェースを追加搭載し、学内LANをFDDIインタフェースで接続することを可能といたします。

なお、SINETルータの強化は平成7年12月を予定しており、ノードの機器構成については、図-2を参照してください。

3. 国際専用回線

7月に、日米間の国際専用回線を2Mb/sから6Mb/sに増強をいたしました。また、9月から日本とタイ王国間に2Mb/sの国際専用回線を新設いたします。



<凡例>

PS/PMX : パケット交換機(富士通社製FETEX-5700/5500/5400等)

IP-R : TCP/IPプロトコル・ルータ(CISCO Systems社製 AGS+/4)

CLAD : セル分解・組み立て機能とATMインタフェースを有するフレームリレー装置
(米国 CASCADE社製 B-STDx9000)

FDDI : FDDI形式を用いた学内LAN

ATM-R : 基本的な機能はIP-Rと同様。ATM交換機に直接接続可能なインタフェースを有する高性能なルータ。
(CISCO Systems社製 CISC07000)

図-2 ノード機器構成

海外へのFAXサービス開始

学術情報センターニュース第32号でお知らせした海外へのFAXサービスを、平成7年7月14日（金）から開始しましたので、お知らせします。

1. FAX出力が可能なデータベース

- ・学術論文データベース第一系（電子）
- ・学術論文データベース第二系（化学）
- ・学術論文データベース第五系（理学）
- ・学会予稿集電子ファイル

2. 利用料金

データベースに接続している時間…………… 50円/分

内容を端末に表示した件数…………… 13円/件

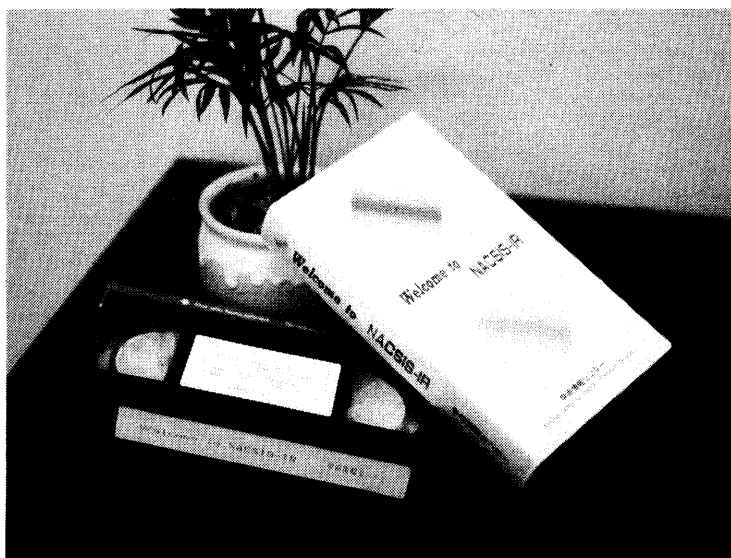
（出力モードW, X, Yの場合を除く）

ファクシミリ出力をした枚数 …………… 236円/枚

なお、利用に係る経費は、各データベースの利用額の月毎の合計額にその3%を加算した額となります。

（共同利用第二係）

教育研修用ビデオ「Welcome to NACSIS-IR」の紹介



本センターが提供する情報検索サービス「NACSIS-IR」の概要を紹介するビデオが完成しました。平成7年度のNACSIS-IR講習会では、受講生の方々に講習会冒頭にご覧いただき、概要を理解する助けとなっています。

このビデオのコピーは各大学の図書館宛にお送りしてありますので、各大学で情報検索

サービスの紹介や学内の職員・大学院生を対象とした講習会にご利用ください。

なお、各大学でNACSIS-IRの紹介や講習会を計画される場合には、本センターの研修課にご相談ください。配布資料・テキスト提供などのご協力をいたします。

VHSテープ 15分。

新設 教育研修用施設

今年度の講習会は、4階の新講習室とデータベース研修員室で開催しています。新講習室には講習用端末機としてワークステーション34台をはじめ、各種の教育用機器を設置しました。また、データベース研修員室には、OHP、ビデオやカラーコピー機などを備えています。講習会開催中は休憩室として受講生の語らいの場に利用されています。講習室はセンターの講習会がない期間には、センター利用のサービスに関する大学等主催の講習会にもご利用いただけますので、ご希望の機関はお問い合わせください。

(研修課)



講習室



講習室



データベース研修員室

学術雑誌総合目録和文編1996年版全国調査の実施

1. 概要

昨年度完成した欧文編1994年版につづき、今年度から和文編改訂のための全国調査を実施します。前回欧文編の調査同様、各図書館の皆様のご協力をお願いします。

今回の和文編1996年版は、従来の改訂期間を1年間短縮し、約2年間にわたる調査・編集により改訂を完了する予定です。また今回は、目録システムに接続していない図書館には、データシートによる調査に比べ作業負担の少ない「CD-ROM全国調査システム」を、できるだけ採用していただくようお願いしております。

2. 予備調査

既に平成7年5月には予備調査を実施し、現参加館と未参加館に対して、参加の有無、データ提出の方式、参加組織名称、担当者などの確認を行いました。この予備調査時点では、約760機関、約1,100図書館（室）の参加が見込まれております。

3. 全国調査

今回の全国調査の基準日は、平成7年（1995年）11月1日現在となります。予備版、個別版リスト、データシートなどの調査で使用する各種資料は、10月にはお送りします。

データ提出の締切は平成8年3月末ですが、オンライン接続館の場合は、この後も引き続きデータの入力をしていただいて結構です。和文編の編集完了後には、和文編・欧文編を統合した1996年版CD-ROMの刊行を予定しています。

4. 全国調査説明会

全国調査の開始にあわせ、今回の調査のための説明会を、下記のとおり、全国6か所で開催します。予備調査で参加すると回答していただいた図書館に対しては、別途、この説明会に関する案内をお送りします。所定の用紙により説明会への出席の有無、出席者名などをお知らせください。それ以外の図書館で、参加を希望なさる場合は、次の問い合わせ先までご連絡ください。

10月30日(月)～11月1日(水)	13:30～16:30	学術情報センター(東京都文京区)
11月1日(水)	〃	九州大学(福岡市)
11月7日(火)	〃	北海道大学(札幌市)
11月8日(水)	〃	京都大学(京都市)
11月10日(金)	〃	東北大学(仙台市)、名古屋大学(名古屋市)

5. 問い合わせ先

和文編調査の方法や参加申込み方法などについてのお問い合わせは、次の担当係までどうぞ。

学術情報センター 事業部 目録情報課 雑誌目録情報係
Tel.03-3942-6985～6986, Fax.03-3944-7131

(目録情報課)

電子図書館サービス平成9年度開始予定

現在試行運用中の電子図書館システムにつきましては、平成9年4月から電子図書館サービスとして事業化することをめざして、センターでは所内に検討組織を設置し運用体制の準備に着手いたしました。サービスに関する現時点の基本的な方針は以下のとおりです。

1. 電子図書館サービスの範囲

(1) サービス対象資料

主として学会および大学等の学術研究機関で発行する学術雑誌や会議録などを対象とする。

(2) サービス利用者

利用者の単位は機関を原則とする。利用者の範囲は学会および大学等の学術研究機関、試験研究機関並びに高等教育機関を原則とする。ただし、個人利用者としての利用も可能とする。

(3) 利用料金

システム利用料金は機関単位の定額料金を原則とする。

なお、著作権料金については著作権問題に係る社会環境を考慮しながら、学術情報の円滑な流通という目的に即した合理的な処理方を講ずるものとする。

2. 電子図書館システムの機能

(1) 基本機能

- ① 学術文献のページ表示機能
- ② 学術文献の二次情報の検索機能
- ③ 学術文献の全文検索機能

(2) 分散型電子図書館システム

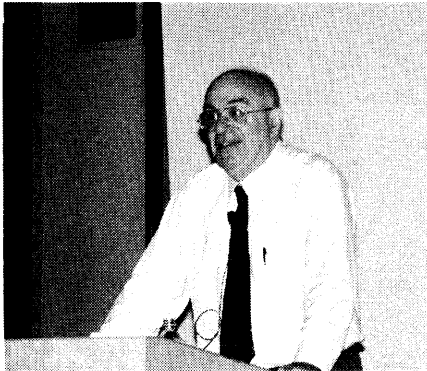
学術情報センターに限らず大学図書館等もサーバ機能をもつ分散型のシステム構成とする。

(3) 他の電子図書館システムとの関係

内外の他の電子図書館システムとは相互利用やゲートウェイなどによって連携を図る。

電子図書館サービスに係る環境は刻々進展していますので、この基本方針は、ここ2～3年の短期的なものとして設定しています。今後、ネットワークや画像処理技術などのシステムの環境や、著作権問題をはじめとする社会環境の変化によって変更することも考えられます。したがって、学会関係者や研究者・大学図書館等の関係者の方々のご意見を参考にしながら望ましいサービス方針を定めて行く予定です。詳細な内容や変更点等は決まり次第追ってセンターニュース等でご案内いたします。

ファーバー教授の日本滞在



JICST講堂で講演するファーバー教授

学術情報センター助教授
はしづめ ひろみち
 橋爪 宏達

ペンシルバニア大学計算機学科のファーバー教授(Professor David J. Farber)は、学術情報センター・東京大学の共同招聘研究者として本年4月末に来日され、学術情報センターに滞在された。60日の滞在期間中に多数の研究機関訪問、講演などを精力的に行われた。

ファーバー教授はコンピュータ通信技術、分散処理技術開発の草分け的存在で、米国のインターネット開発に、最初期から現在まで指導的な役割を果たしている。また米国科学財団(NSF)の研究プログラム委員として超高速ネットワーク研究の重要性を一貫して主張され、その成果は米国のNII, GII (いわゆる「情報ハイウェイ」)政策に結びついている。国家・地球規模のネットワークコミュニティ構想をもつ学者として世界的に著名である。

ファーバー教授は大の親日家でもあり、日本の通信技術開発に深い関心をよせている。21世紀の情報・通信は日本と米国の関係を軸に展開するというのが教授の持論で、今回の日本滞在は学術情報センターの招聘にあわせて、教授自身の強い希望もあって実現した。郵政省は昨年「2010年までに家庭に光ファイバーを」という標語で高速通信政策の大綱を発表するなど、国内の諸機関で通信システム具体化の議論が進行している。教授は現時点が今後の両国の技術協力体制を構築する最も重要な時期と言っておられ、訪問や講演を通じて、日本側に多くのアドバイスを残した。

学術情報センターのネットワーク計画、電子図書館計画にも多大な興味を寄せられ、今後の共同研究推進を含め、多くの提案をされた。離日の直前、滞在をしめくくる形でファーバー教授公開講演会「高速ネットワークプロジェクトとGII構想」が開催された(6月23日(金)、JICSTホール)。この講演は最近10年の米国におけるネットワーク研究進展を要約するもので、超高速ネットワーク研究体制の成立からNII(National Information Infrastructure)やGII(Global Information Infrastructure)への展開の必然性を述べられた。また現在は「通信技術の発達により、通信速度がコンピュータの処理能力を超過した時代」とであると定義され、それに即した技術としてネットワーク仮想記憶システムなど最新の教授の研究成果を紹介された。講演終了後の約200人の聴衆を交えた質疑応答は、時代を反映してか、インターネット上のNetwork Money構想など具体的なサービス応用に集中したが、教授はこれらの質問に「日本の買いものでは現金の支払いが好まれるが、米国では小切手である。しかし将来のNetwork Moneyは日本の習慣にむしろなじむ制度になる」などと、日米の社会的なサブカルチャーの相違にまで言及しながら対応していた。

物価高と1ドル=84円の為替レートに目を白黒されながらも、日本食が大好物というファーバー先生は、ご夫婦での60日間の滞在を心から楽しんでおられた。その間にACM(米コンピュータ学会)の1995年SIGCOMM賞授賞の報に接するなど、今回の滞在は教授にとっても忘れられない思い出になったようである。

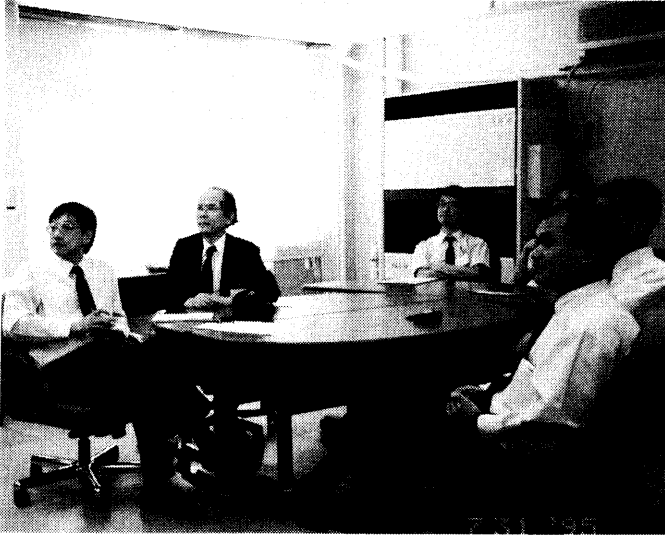
多言語対応目録システムの開発計画

学術情報センターでは、平成8年1月にメインシステムの更新を行い、従来のメインフレームのみの構成からオープンシステムを含んだ構成に変更する予定です。そのあと総合目録データベースも年度内を目途にサーバマシンに移行する予定です。同時にデータベース管理システム（DBMS）もサーバマシンに移行しますが、目録／ILLシステム自体は、この時点ではまだ従来のままメインフレーム上での運用になります。しかし、総合目録データベースがサーバマシンに移行することによって、目録／ILLシステムはクライアント・サーバ方式という新たな電算機構成の上で、従来行い得なかった新たなサービス展開ができる可能性を持つことになりました。例えば、データの即時更新を行ったり、インターネット上からの検索が可能な機能を追加したり、そして将来的には、24時間サービスや世界中のすべての文字をシステム上で表現したりすることなどです。

目録情報課では、これらの可能性を実現するために、今年度から「新CAT／ILLシステム検討会議」を所内に設置し、「多言語対応目録システム」の設計、開発に着手することになりました。当面は、クライアント・サーバ方式という新方式による目録／ILLシステムのプロトタイプを作成し、実験、評価することになります。そのため現在「検討会議」ではプロトタイプに必要な機能の洗い出しを中心に作業を継続しています。このプロトタイプに対する評価を踏まえて提供版の機能を決定し、平成9年4月には、一定の成果を組み込んだ新サービスを開始する予定です。最終的には、中国語資料や韓国語資料も含んだすべての図書館資料をデータベース化し、いつでも、どこでも利用できるようなシステムを提供する予定です。そのためには、まだ長い道のりが必要ですが、利用者皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(目録情報課)

タイ国からの招へい



学術情報センター助教授
あいざわ あきこ
相澤 彰子

タイ国との国際学術共同研究プロジェクト（文部省科学研究費補助金による「学術情報の国際交換に関する実証研究」研究代表者小野欽司研究開発部長）の活動の一環として、タイ国の国立通信技術センター（National Electronics and Computer Technology Center, 以下NECTEC）よ

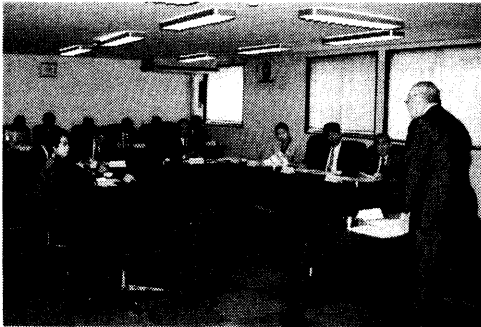
りHugh Thaweesak Koanantakool博士、Royol Chitradon博士、Passakon Prathombutr氏の3名を本センターに招へいし、1995年7月31日（月）～8月1日（火）に共同研究に関する打合せ、猪瀬所長との懇談を行った。

タイ国は「IT'95」と銘打って本年を情報技術の年とし、通信とコンピュータ応用の社会への普及を精力的に行っている。この中で、NECTECは、タイ国の科学技術環境庁（Ministry of Science, Technology and Environment）のもと政府の推進活動の中核機関として位置づけられ、タイ国の学術情報ネットワークであるThaiSarn（The Thai Social / Scientific, Academic and Research Network）の運用を行っている機関である。

今回の打合せの目的は、9月に予定されているタイ国との間の2 Mbps国際回線の開通および10月の開通式に向けて、タイ側の接続先機関であるNECTECとNACSISの間で、技術的・政策的な課題に関する意見交換を行うことであった。打合せではまず、物理回線およびインターネット接続に関する作業課題を整理し、次に、学術情報センターのNACSIS-IR/ILL,NACSIS-CAT, NACSIS-ELB, 全文データベース, WWW資源提供サービスの各サービスの紹介およびデモを行った。意見交換の場では、現在運用中あるいは研究開発中であるこれらのサービスについて、タイ国における需要や展開の可能性が議論され、また国際回線を有効利用するためのアプリケーションや広報活動の必要性などが指摘された。

本プロジェクトは3年次計画の2年目にあり、昨年度の3月にタイ国で開催された国際ワークショップ(International Workshop on Academic Information Networks and Systems, WAINS'95)では、すでにタイ国の学術情報システムに関する調査報告や学術情報センターの活動報告がなされている。これらの展開を受けて今回の招へいでは、タイ国との国際回線の運用や利用法, NACSISとNECTECの今後の協力体制について、実質的で有益な議論の場を持つことができた。

参議院文教委員会委員が学術情報センターを視察



所長挨拶



デモンストレーション

松浦委員長を代表とする参議院文教委員会委員7名は、5月30日(火)学術情報センターを訪れ、約1時間に亘って本センターの施設を視察した。

委員は、猪瀬所長ら幹部職員、文部省の岡村学術国際局長、木島学術情報課長の出迎えを受け、会議室で猪瀬所長から施設の概要等について説明を受けた。

その後、プレゼンテーション室に移り、センターの事業である目録システム(CAT)、現在研究開発し、事業に向けて試行中の電子図書館について、更に新プロ研究室では超高速通信網実験のデモンストレーションがそれぞれ行われ、委員からこれらについて熱心な質疑があった。

メインシステム機種更新作業に伴うサービス休止の予定

本センターのメインシステムは、平成4年1月に現機種(HITAC M-880/420 および M-880/210)に更新し、目録所在情報および情報検索サービスを運用しておりますが、利用者の増加とデータベース容量の増加およびオープンシステムへの対応などに対処するために新しい機種に更新して、平成8年1月から、新機種でサービスを開始することとなりました。更新作業は作業量が膨大なため、従来の年末年始の休止期間を以下のとおり延長して実施する予定です。ユーザーの皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご協力よろしくお願いいたします。

サービス休止期間：平成7年12月20日(水)～平成8年1月8日(月)

この期間、以下の業務を休止いたします。

- (1) 目録所在情報サービス
- (2) 情報検索サービス
- (3) 総合目録データベース個別版、定期版の提供
- (4) 拡張文字フォント移植

このことにより、オンラインでの目録データの入力計画や、個別版、定期版の利用による業務を予定している機関にあっては、特にご留意願います。

(システム業務係)

「日本建築学会文献索引データベース」サービス開始

日本建築学会が発行する雑誌に掲載された論文について、論題、著者、掲載誌等を収録した「日本建築学会文献索引データベース」のサービスを平成7年9月1日(金)から開始しましたので、その概要などをお知らせします。

1. 概要

- (1) 収録対象 : 日本建築学会が発行する建築雑誌, 論文報告集, 学術講演梗概集, 研究報告集などに掲載された論文
- (2) 収録範囲, 収録件数 : 1986年~1990年のデータを収録し, 件数は約30,000件
- (3) 収録項目 : 標題, 著者名, 掲載雑誌名, 年月次, ページ, 分類など
- (4) 呼び出しコマンド : 「KENTIKU」または「KENCHIKU」
- (5) その他 : 本データベースは, 日本建築学会が作成したデータベースを, 同会の協力を得てサービスを行うものです。

2. 利用方法

データベースの内容および利用方法などについては、「NACISIS-IRデータベースシート(KENTIKU)」をご覧ください。

3. 利用料金

データベースを呼び出す都度・・・30円/回

なお, 利用に係る経費は, 各データベースの利用額の月毎の合計額にその3%を加算した額となります。

4. その他

1991年以降の日本建築学会での研究発表は「学会発表データベース(GAKKAI)」に収録されています。統合検索機能を用いると, 収録範囲を意識せずに網羅的な検索ができます。ただし, 本データベースには抄録は収録していません。

(データベース課)

NACISIS-MAIL公開情報サービスの利用法変更

NACISIS-MAILシステムにおいて公開情報サービスの利用法が一部変更となりました。

主な変更点は次の2点です。

(1) XFSUTLコマンドからFTPコマンドの利用

(2) 漢字コード変換プログラムの利用

次に実際の利用例を説明します。(下線部は利用者の入力を表します)

(1) FTPコマンドの利用例

```

SYSTEM ?FTP 157.1.32.5 ..... ①

connected to 157.1.32.5
220 info FTP server (Version wu-2.4(1) Mon Apr 24 20:12:18 JST 1995)
(username): anonymous ..... ②

331 Guest login ok, send your complete e-mail address as password.
(password):
J0000@sinet.ad.jp ..... ③

230-----
230-Welcome to Anonymous FTP World (SIMAIL)
230- RFC -----
230- MANUAL -----
230- cnews -----
230- documents -----
      :

ftp>dir ..... ④
200 PORT command successful.
150 Opening ASCII mode connection for /bin/ls.
total 24
drwxrwx--x  8 ftp      ftp    512 Apr 26 15:09 .
drwxrwx--x  8 ftp      ftp    512 Apr 26 15:09 ..
-rwx-----  1 ftp      ftp    114 Jan  4 19:03 .netrc
-rw-r--r--  1 ftp      ftp    144 Nov 20 1992 .profile
-rw-r--r--  1 ftp      ftp   1507 Mar 23 1994 README
d--x--x--x  3 root     other  512 Apr 26 13:53 bin
d--x--x--x  2 root     other  512 May 25 1994 dev
d--x--x--x  3 root     other  512 Apr 26 13:55 etc
drwxrwxr-x  3 ftp      ftp    512 Mar  2 11:59 ftp
drwxrwxr-x 10 ftp      ftp    512 Apr 26 15:20 pub
dr-x--x--x  4 root     other  512 Apr 26 13:57 usr
      :

ftp>get README test1 ..... ⑤
200 PORT command successful.
150 Opening ASCII mode data connection for README (1507 bytes).

```

```
226 Transfer complete.
local: test1 <-- remote: README
1446 bytes received in 0.124 seconds (11.529 kbytes/s)
ftp>quit ..... ⑥
```

- ① I P アドレス(157.1.32.5)を指定します。
- ② ログイン名は必ず anonymous を入力します。
- ③ パスワードは、利用者自身のメールアドレスを入力します。
- ④ ファイルの一覧を表示させます。
- ⑤ README を test1 というファイル名で転送します。
- ⑥ F T P の利用を終了します。

(2) 漢字コード変換プログラムの利用例

転送したファイルに漢字がある場合、文字化けを起こす事があります。
その時は、漢字コード変換プログラムを用いて漢字コード変換後、表示を行います。

```
SYSTEM ?KCNV ..... ①
JIS.C version 1.7. jips (August 20, 1991)
:
Infile name ->
= TEST1 ..... ②
The input file's KANJI code is XXXXXX
Select output file's KANJI code
NEW-JIS : 1
:
JIPS(ACOS): 6
QUIT : Q
SELECT ->
= 6 ..... ③
Outfile name ->
= /TEST2 ..... ④
SYSTEM ?LIST TEST2 ..... ⑤
```

- ① 漢字コード変換プログラムを起動します。
- ② 変換対象(変換元)のファイル名を入力します。
- ③ 変換後の漢字コード(電子メールシステムで表示するので6を指定)を指定します。
- ④ 変換後のファイル名を/に続けて入力します。
- ⑤ 変換を行ったファイルの内容を表示します。

(システム業務係)

個別版CD-ROM提供サービスの追加募集

「個別版CD-ROM提供サービス」の平成7年度追加募集を以下の要領で行います。

1. サービス提供条件

(1) 対応機種およびOS

- ・ NEC-9801VX以降に発売されたPC-98シリーズでMS-DOSバージョン3.3以上
- ・ IBM-PCまたはその100%互換機でDOS/Vバージョン5.0以上

(2) 対象機関

- ・ 目録所在情報サービスの参加組織（学総目参加機関を含む）

(3) 収納対象

- ・ 総合目録データベースに登録された図書・雑誌の書誌・所蔵データ
- ・ 図書のみ、雑誌のみ、和洋単位でも受け付けます。

(4) 作成単位

- ・ 単一の参加組織、またはいくつかの参加組織からなるグループ（機関全体や大学と短期大学の集合など）。ただし、後者の場合グループに属する全ての参加組織の同意が必要です。
- ・ 他の機関の参加組織を含めたグループも可能ですが、この場合は、対象機関の同意書が必要です。
- ・ 配置コード単位でも作成できる場合があります。

(5) 収納件数

- ・ 上記作成単位の平成7年9月末現在の収納対象所蔵件数の合計が12万件を限度とします。

(6) 提供頻度

- ・ 年1回

(7) 提供セット数

- ・ 同一のCD-ROMを最大5セットまでとします。

(8) 提供時期

- ・ 受諾書において個別に通知します。

(9) 提供価格

対象件数	1セット単価	2～5セットの単価
3万件以下	10,000	5,000
6万件以下	20,000	10,000
9万件以下	30,000	15,000
12万件以下	40,000	20,000

(注1) 対象件数は、平成7年9月末現在の収納対象所蔵件数

(注2) いずれも1セットあたりの消費税込みの価格で、単位は円

(注3) 例えば、作成対象件数が3万件の機関が5セット申し込む場合は
 $10,000 + 5,000 \times 4 = 30,000$ で、3万円となります。

(10) CD-ROMの保証期間

- ・ 提供するCD-ROMについては、通常の使用で一年間保証します。通常の使用で障害が生じた場合は、一年以内であれば無償で交換します。

2. 申込締切

平成7年10月31日（火）必着

3. 申込書の請求・問い合わせ先

〒112 東京都文京区大塚3-29-1

学術情報センター事業部目録情報課専門・電子情報係気付
財団法人電気・電子情報学術振興財団

電話 (03)3942-6987, 6988 (直通) FAX (03)3944-7131

「パソコン通信による情報検索・電子メール接続案内」の発行

前号で紹介したとおり、各通信ソフトごとに接続案内を発行していますが、通信ソフトをお持ちでない方を対象に、Windows付録通信ソフト「ターミナル」を利用した接続案内「ターミナルによるNAC SIS接続」を作成しました。この接続案内では、パラメータ等の設定だけでなく、接続方法についても解説しています。

なお、前号で紹介した「まいと〜くfor WINによるNAC SIS接続」は好評により残部が少なくなっておりますので、早めにお申込みください。

ご希望の方は、①利用者番号、②利用者名を記載するとともに「ターミナルによるNAC SIS接続希望」または「まいと〜くfor WINによるNAC SIS接続希望」と明記の上、共同利用第一係までFAX(03-3942-6797)でお申込みください。

(共同利用第一係)

接続ニュース

前号以降、新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は、以下のとおりです。

(平成7年8月28日現在)

No.	機 関 名	接続日	No.	機 関 名	接続日
383	岡山商科大学	7.05.31	393	東京都立航空工業高等専門学校	7.07.07
384	別府大学	7.06.07	394	岡崎学園国際短期大学	7.07.10
385	立教大学	7.06.09	395	京都外国語大学	7.07.10
386	東洋英和女学院大学	7.06.13	396	大阪府立夕陽丘図書館	7.07.11
387	倉敷芸術科学大学	7.06.15	397	和歌山県立医科大学	7.07.12
388	奥羽大学	7.06.19	398	駿河台大学	7.08.04
389	金沢医科大学	7.06.19	399	八戸工業大学	7.08.08
390	農水省蚕糸・昆虫農業科学技術研究所	7.06.20	400	岐阜県図書館	7.08.22
391	理化学研究所	7.06.20	401	釧路公立大学	7.08.28
392	新潟産業大学	7.07.06			

この結果、参加機関数は、国立大学97、公立大学31、私立大学200、共同利用機関12、短期大学23、高等専門学校7、その他31、合計401となりました。

(共同利用第一係)

NACSIS-I Rデータベース収納状況 (1/2)

平成7年7月14日現在

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
1	科学研究費補助金 研究成果概要データベース	141,189	昭和60年度～
2	学位論文索引データベース	121,134	昭和59年度～
3	学会発表データベース	206,475	昭和62年3月～
4	学術論文データベース第一系(電子)(全文) (抄録)	2,421 4,927	平成元年度～
5	学術論文データベース第二系(化学)	14,565	昭和58年1月～
6	学術論文データベース第五系(理学)	6,385	平成3年3月～
7	海外研究プロジェクトデータベース	80,972	平成4年1月末現在
8	民間助成研究成果概要データベース	3,153	昭和39年度～
9	経済学文献索引データベース	113,330	昭和58年1月～
10	学会予稿集電子ファイル	163,215	1955年4月～
11	臨床症例データベース	3,900	1984年4月～
12	雑誌記事索引データベース	1,156,976	1984年1月～
13	現行法令データベース	3,745	平成6年10月末現在
14	維新史料綱要データベース	28,667	
15	古文書目録データベース	2,198	
16	木簡データベース	15,925	
17	研究者ディレクトリ	126,561	平成5年12月現在
18	データベース・ディレクトリ	1,752	平成6年7月現在
19	家政学文献索引データベース	57,276	1979年1月～
20	R A M B I O S	12,761	1983年4月～
21	化学センサーデータベース	16,439	1975年1月～
22	日本独文学会文献情報データベース	12,729	1980年～
23	スラブ地域研究文献データベース	3,373	1988年～
24	電気化学データベース	72,153	
25	文化財科学文献データベース	13,873	1879年1月～
26	化学と教育誌データベース	3,537	1972年1月～
27	現代邦楽作品データベース	1,665	1963年1月～
28	Life Sciences Collection PULS Marine Biology and BioEngineering	1,465,851	1982年1月～

NACSIS-IRデータベース収納状況(2/2)

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
29	MathSci	1,632,271	1940年1月～
30	COMPENDEX PLUS	3,066,673	1976年1月～
31	Harvard Business Review	2,705	1927年1月～
32	ISTP & B	2,542,300	1982年1月～
33	EMBASE	3,344,342	1984年4月～
34	SciSearch	9,055,751	1983年1月～
35	Social SciSearch	1,580,113	1983年1月～
36	A & H Search	1,438,339	1983年1月～
37	学術雑誌目次速報データベース	16,696	
38	目録所在情報データベース (和図書)	1,032,962 11,765,129	
39	目録所在情報データベース (洋図書)	2,197,499 6,261,200	
40	目録所在情報データベース (和雑誌)	77,648 1,587,297	
41	目録所在情報データベース (洋雑誌)	125,412 1,119,483	
42	科学技術関係欧文会議録	43,716	昭和60年1月～
43	アメリカン・センター図書館 総合目録データベース	5,883	平成5年10月末現在
44	JPMARC	1,724,235	1868年1月～
45	LCMARC(Books)	3,860,317	1968年1月～
46	LCMARC(Serials)	668,589	1973年1月～
47	大型コレクションディレクトリ	496	1978年4月～
48	学術関係会議等開催情報 (日本学術会議編)	14,117	1991年4月～
49	学協会集会スケジュール (日本工学会編)	4,325	1991年4月～

(注) No38～41のデータベースの上段は書誌件数，下段は所蔵件数

(システム業務係)

NACSIS-CATデータベース構築状況

平成7年7月14日現在

データベース名称		収納件数	備考(収録期間等)	
総合目録データベース	和 図 書	書 誌	1,044,949	
		所 蔵	12,060,438	
	洋 図 書	書 誌	1,458,984	
		書誌(遡及)	739,768	
	和 雑 誌	所 蔵	6,266,846	
		書 誌	79,459	
	洋 雑 誌	所 蔵	1,617,004	
		書 誌	127,260	
	著 者 名 典 拠	所 蔵	1,132,470	
	統 一 書 名 典 拠		800,598	
	和 雑 誌 変 遷 マ ッ プ		7,311	
	洋 雑 誌 変 遷 マ ッ プ		8,827	
	参照ファイル	LC/MARC	洋 図 書 書 誌	4,664,686
洋 雑 誌 書 誌			668,589	1973年1月～1995年6月
非 文 字 書 誌			268,147	1973年1月～1993年7月
洋 書 著 者 名 典 拠			2,785,486	1977年1月～1995年7月
洋 書 統 一 書 名 典 拠			158,441	1977年1月～1995年7月
JP/MARC		和 図 書 書 誌	1,730,273	1948年1月～1995年7月
		和 雑 誌 書 誌	95,846	1968年8月～1994年10月
		和 書 著 者 名 典 拠	327,561	
UK/MARC		洋 図 書 書 誌	1,482,612	1950年1月～1995年6月
TRC/MARC		和 図 書 書 誌	414,019	1985年4月～1995年7月
GPO/MARC		洋 図 書 書 誌	379,298	1976年1月～1995年6月

(システム業務係)

平成7年度学術情報センターシンポジウム開催

平成7年度学術情報センターシンポジウムを次のように開催します。

1. テーマ デジタル情報流通と学術コミュニティ

- ### 2. 内容
- ①高度情報化キャンパスを目指して：立命館大学（仮題）
 - ②国立国会図書館関西新館構想（仮題）
 - ③メインフレームからオープンシステムへ
 - ④次世代の情報検索サービス
 - ⑤世界のデジタル・ライブラリー
 - ⑥質疑応答

3. 日時・場所

○関西会場 10月25日（水） 10：00～16：00

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス プリズムホール
（滋賀県草津市野路町1916）

交通：JR琵琶湖線（東海道線）南草津駅から立命館大学行きバスで10分

JR草津駅から立命館大学行きバスで20分

瀬田駅から立命館大学行きバスで15分

東名高速・瀬田東インターから草津方面へ10分

○東京会場 11月21日（火） 10：00～16：00

銀座・ヤマハホール（東京都中央区銀座7-9-14）

交通：JR山手線新橋駅から徒歩5分

営団地下鉄銀座線・丸ノ内線・日比谷線銀座駅のA3出口から徒歩5分

都営地下鉄浅草線新橋駅から徒歩5分

* 2会場ともに同じ内容で実施します。

4. 参加申込み

参加費は無料です。参加をご希望の方は、ハガキまたはFAXか電子メールで①参加会場名、②参加者氏名、③勤務先または所属機関の名称と所在地、④職名、⑤連絡先電話番号・FAX番号を明記のうえ、学術情報センター研修課企画係へお申込みください。

先着順に受け付け、申込み者数が各会場の定員に達し次第締切ります。

申込み受け付け者には、詳しい案内を送付します。

5. 申込み・問い合わせ先

〒112 東京都文京区大塚3-29-1

学術情報センター 研修課企画係

電話（03）3942-6935（直通）

FAX（03）5395-7477

電子メール NACSIS-MAIL Z00515 E-MAIL edu@hrd.nacsis.ac.jp

平成7年度の科学研究費補助金「研究成果公開促進費」 による「大学と科学」公開シンポジウム開催

平成7年度「大学と科学」公開シンポジウムを下記のように開催します。

情報スーパー・ハイウェイ ー加速する研究・教育・医療ー

日時：平成7年12月5日（火）～6日（水）
場所：日経ホール
住所：東京都千代田区大手町1-9-5
電話：03-3270-0251

平成7年12月5日（火）

- A. 挨拶（10:00～10:10）
第10回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会
文部省
- B. 総合講演（10:15～12:15）
司会 学術情報センター教育研修部長
井上 如
1. 社会資本としての情報インフラストラクチャー
学術情報センター所長 猪瀬 博
 2. 情報スーパー・ハイウェイと新しい研究環境
ラトガース大学副学長
ジェームス・フラナガン
- C. デジタル技術の中の研究情報
（13:30～17:00）
司会 学術情報センター教育研修部長
井上 如
1. 電子漢字六万五千字
ー漢籍のコンピュータ処理の現状ー
京都大学人文科学研究所
附属東洋学文献センター助教授
勝村哲也
 2. 写真で甦る日本開化史
ー日文研における写真データベースー
国際日本文化研究センター助教授
小野芳彦
 3. 電子図書館早分かり
学術情報センター 教授 安達 淳

4. 電子文書・電子出版から電子取引まで
ーSGMLをめぐる諸活動ー
学術情報センター 教授 根岸正光

平成7年12月6日（水）

- D. 情報教育への拡がり（10:00～12:15）
司会 学術情報センター教授
根岸正光
1. 電子美術館
ーミュゼ・イマジネールの実現ー
東京国立博物館情報管理研究室長
高見沢明雄
 2. 情報利用教育
ー学術情報サービスの礎石としてー
学術情報センター教育研修部長
井上 如
 3. 情報教育の現状と将来
大学入試センター副所長 坂元 昂
- E. 加速する医療と生活
1. ネットワーク生活の時代
ニフティ（株）取締役企画部長
山川 隆
 2. 電子ブックの開発と可能性
ソニー（株）CAVカンパニーPAV部門
GA2部商品設計4課担当部長
宇喜多義敬
 3. 超高速通信と病院ネットワーク
東京大学医学部 教授 開原成允
 4. 脳と情報における個人差の意味
東京大学 元教授 養老孟司

平成7年度国際シンポジウム開催

平成7年度国際シンポジウムを次のとおり開催します。

1. テーマ

超高速学術研究国際シンポジウム

2. 内容

国内外の研究者を招いて、学術情報センターで行われている「学術研究支援のための超高速情報通信網の研究開発」の成果を討議し、同時に欧米の研究開発状況の発表を行い、今後の研究課題を相互に確認する。

3. 日時・場所（予定）

平成7年11月28日（火）～29日（水）

日本電信電話株式会社通信網研究所

4. 参加申込み

詳細は、後日NACISIS-BBS, WWWなどでお知らせします。

平成7年度前期会議等報告

評議員会

平成7年度前期の学術情報センター第20回評議員会は次のような議事について審議を行った。

第20回（平成7年6月28日（水））於：学術情報センター小石川分館会議室

- 議 事**
1. 前回国議議事要録の確認について
 2. 教官の人事について
 3. 平成7年度事業計画について
 4. 平成7年度補正予算（第1次）について
 5. 平成8年度概算要求について
 6. その他

運営協議員会

平成7年度前期の学術情報センター第25回運営協議員会は次のような審議・報告を行った。

第25回（平成7年6月29日（木））於：学術情報センター小石川分館会議室

- 議 事**
1. 前回国議議事要録の確認について
 2. 教官の人事について
 3. 平成7年度事業計画について
 4. 平成7年度の共同研究について
 5. 平成7年度補正予算（第1次）について
 6. 平成8年度概算要求について
 7. その他

参与会

学術情報センター参与会（第7回）は次のような話題について意見を交換した。

第7回（平成7年7月6日（木））於：学術情報センター小石川分館会議室

- 話 題**
1. 学術情報センターの現状と課題について
 2. その他

人 事 異 動

発令年月日	氏 名	官 職 名	旧 官 職 名
(採 用)			
7. 8. 1	鶴岡 弘	研究開発部システム研究系 システム工学研究部門助手	
(転 入)			
7. 7. 1	関 國男 松方 純	管理部長 研究開発部システム研究系 ネットワーク工学研究部門助教授	奈良先端科学技術大学院大学総務部長 宇宙科学研究所宇宙科学企画情報解析センター 助教授
7. 7. 16	岡田智佳子	事業部目録情報課専門・電子情報係	京都大学総合人間学部・人間・環境学研究科
7. 8. 1	山西 秀幸	事業部ネットワーク課ネットワーク運用係	神戸大学総合情報処理センター
(所内異動)			
7. 7. 1	加徳 健三 船渡川 清 熊淵 智行	事業部データベース課課長補佐 事業部データベース課データベース管理係長 教育研修部研修課指導第一係 教育研修部研修課指導第一係 教育研修部研修課指導第一係指導主任(命)	事業部データベース課データベース管理係長 教育研修部研修課指導第一係長 事業部データベース課調査係
	平野 裕志 小山 照夫	事業部データベース課調査係 研究開発部研究動向調査研究系 生物系研究部門教授	事業部目録情報課専門・電子情報係 研究開発部学術情報研究系 データベース研究部門教授
	計 宇生	研究開発部学術情報研究系 データベース研究部門助教授	研究開発部システム研究系 ネットワーク工学研究部門助手
	相澤 彰子	研究開発部システム研究系 国際情報流通システム研究部門助教授	研究開発部システム研究系 ネットワーク工学研究部門助手
(職務命令)			
7. 8. 7	山西 秀幸	千葉分館勤務命	
(転 出)			
7. 7. 1	三浦 良雄 大野 透 永井 善一	奈良女子大学事務局長 徳島大学経理部情報処理課長 国立国会図書館総務部企画課企画第二係長	管理部長 事業部データベース課課長補佐 事業部ネットワーク課ネットワーク運用係

海外渡航一覧

5. 14~5. 19	高須助教授(米国)
5. 28~5. 31	安達教授(仏国)
6. 3~6. 10	山田副所長(シンガポール)
6. 5~6. 11	高須助教授(オーストラリア)
6. 10~6. 16	安達教授(米国)
6. 14~6. 18	井上教育研修部長(フィンランド)
6. 19~6. 26	猪瀬所長(イタリア共和国)
6. 23~6. 27	浅野教授(米国)
6. 23~7. 3	山田副所長(ノルウェー王国)
6. 27~7. 3	計助教授(米国)
7. 2~7. 9	井上教育研修部長(米国)
7. 8~7. 16	神門助手(米国, カナダ)
7. 12~7. 18	太田和助教授(中華人民共和国)
7. 24~8. 4	浅野教授(カナダ)

学術情報センター日誌

[平成7年4月25日～平成7年8月10日]

- 5. 1 Computer & Information Science, University of Pennsylvania,
Prof. David J. FARBER 来訪
- 5. 1 Permanent Delegation of Finland to the OECD, Dr. Matti LAHODEOJA 来訪
- 5. 16 六大学事務系初任職員研修～19
- 5. 30 参議院文教委員会視察
- 5. 30 目録システム講習会(図書コース①)～6. 1
- 6. 2 電子メールシステム講習会(基礎コース①)
- 6. 6 目録システム講習会(図書コース②)～8
- 6. 13 I R 講習会(基礎コース I ①)
- 6. 20 I L L システム講習会①～21
- 6. 27 I R 講習会(基礎コース II ①)～28
- 6. 28 第20回評議員会
- 6. 29 第25回運営協議員会
- 7. 4 目録システム講習会(雑誌コース①)～6
- 7. 6 第7回参与会
- 7. 10 PETROBRAS Petroleo Brasileiro S/A, Mr. Luiz Paulo ALBINO 来訪
- 7. 11 中国現代国際研究所 Mr. XU dan, Mr. YAN Zongxin, Mr. GU Shiguang,
Mr. XU Yuefang, Mr. DING Jianchun, Mr. ZU Guoxiong 来訪
- 7. 12 大学図書館職員長期研修～14
- 7. 18 I R 講習会(基礎コース I ②)
- 7. 20 電子メールシステム講習会(基礎コース②)
- 7. 25 I L L システム講習会②～26
- 8. 1 目録システム講習会(図書コース③)～3
- 8. 10 I R 講習会(基礎コース I ③)

学術情報センターニュース(第33号)

1995年9月14日発行

発行人 猪瀬 博

発行 学術情報センター 〒112 東京都文京区大塚3丁目29番1号

電話 (03)3942-6937(直通) 共同利用課 情報・資料係